

2021年3月11日（木） 【普通科課題研究発表会】 午前：1年生 中間発表会

1学期より身のまわりで起きている出来事や自分の関心事から発見した気づきなどを掘り下げて、自分自身の価値観を広げていけるような活動を行ってきました。今回の中間発表では、クラスを解体してチームを組み、それぞれのチームが「未来をよりよくするための課題解決」について、今自分たちが考えていることをまとめ、紙芝居方式（KP法）で、発表しました。

発表の後に、島根大学教育学部教育学研究科の中村怜詞先生より「探究活動のススメ」と題して、講演をしていただきました。

チームで話し合う中で、ある意見が正しいか間違いかということ話し合うのではなく、それが本質的であるかやそのアイデアを深めるために考える過程で自分たちが「わくわく」することが大切なことや、自分がつけたい力（たとえばコミュニケーション能力）をつけるためと思って課題研究に臨むことが大切であり、そのために、準備→実効→内省（リフレクション）のサイクルが必要だということをお話いただき、来年度の課題研究への意欲を高める心が動いた時間となりました。

* 来年度の最終発表会は令和3年12月14日を予定しています。

（発表テーマの例）

- 島根県の人口減少への対応策を経済・観光・文化面から見直す
- 食品ロスと環境問題への対策を練る
- コロナ禍での医療や防災に関する課題を解決しようとする



2021年3月11日(木) 【普通科課題研究発表会】午後：2年生 最終発表会

1年次最後に個人で提案したことの中から、「自分の未来・地域の未来をよりよくするプロジェクト」として、各グループでテーマを再設定し、9月と11月にフィールドワークにでかけ、協働して取り組んできた成果をポスター形式で発表しました。

島根大学教育学部教育学研究科の中村怜詞先生に、生徒の発表を見ていただき、講評・フィードバックをいただきました。プレゼンの内容に説得力がある、たとえば、理由がきちんと説明されている、仮説を立てて検証されているような班は良かった。質問などで聴衆を巻き込んでいるような、訴えかけるようなプレゼンだと、聴衆は納得するし、応援したくなるものだと講評をいただきました。また、課題研究はそもそも何のためにするの？自分にとって課題研究の価値って何？本気または夢中でやった？と問いかせられ、野村萌絵さんが、「自分にとっての課題研究は、将来自分で考えて行動するための力をつけることができた。」と答えていました。

* 来年度の最終発表会は令和3年12月14日を予定しています。

(発表テーマの例)

- 親子がふれあえる会を開き、運動を通してより楽しく子育てができる環境を目指す
- 北高で北高生に再資源化のメリットを伝えることで、ゴミの分別に対する理解を深めてもらいたい
- 避難所での外国人の対応を強化しよう！ ～意思疎通カードの作成～

